

科目名 (英)	医学総論 (Introduction to Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 自身が大学院で習得し、看護大学で概論授業、国家試験対策授業経験を持つ教員が授業を行う。言語聴覚士に必要なと思われる公衆衛生学、予防医学について将来役に立つ情報についても、講義する。個人ワーク、グループワークを適宜取り入れた授業形態とし、学生自身が考え、学生間で知識の共有・理解を目指す。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な公衆衛生学、予防医学の基礎知識を理解して修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 配布資料				【授業外における学習】 専門用語の理解			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】健康とは 【授業形態】GW+講義 【到達目標】WHOの健康定義、健康の指標、ライフサイクル、発達段階・課題について理解する。			9	【授業単元】母子保健 【授業形態】GW+講義 【到達目標】妊産婦死亡率、小児死亡率の母子保健を理解する。		
2	【授業単元】障がいの概念 【授業形態】GW+講義 【到達目標】国際生活機能分類(ICF)の概念について理解する。			10	【授業単元】老人保健 【授業形態】GW+講義 【到達目標】高齢化社会、介護等の現状、問題点を理解する。		
3	【授業単元】医の倫理 【授業形態】GW+講義 【到達目標】基本的な人権と医の倫理、医療事故を理解する。			11	【授業単元】精神保健 【授業形態】GW+講義 【到達目標】ストレス、精神疾患、薬物依存、自殺の現状を理解する。		
4	【授業単元】臨床医学研究と倫理 【授業形態】GW+講義 【到達目標】臨床医学研究、EBMについて理解する。			12	【授業単元】感染症対策 【授業形態】GW+講義 【到達目標】感染源、経路、予防策を理解する。		
5	【授業単元】人口動態 【授業形態】GW+講義 【到達目標】日本の人口の推移、出産と死亡、死因について理解する。			13	【授業単元】環境保健 【授業形態】GW+講義 【到達目標】環境破壊の現状を理解する。		
6	【授業単元】疾病予防 【授業形態】GW+講義 【到達目標】疾病の危険因子とその予防を理解する。			14	【授業単元】公害薬害 【授業形態】GW+講義 【到達目標】公害・薬害を理解する。		
7	【授業単元】生活習慣病 【授業形態】GW+講義 【到達目標】高血圧、糖尿病、高脂血症などの予防を理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる。			
【特記事項】	専門用語が多いので、その都度覚えるように心がける。疾患については、解剖学・生理学・病理学・内科学等の知識が必要となるので予習復習をしてください。						

科目名 (英)	解剖学 Anatomy	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床兼エア技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床(病理検査、細胞診)業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。言語聴覚士として必要な人体の構造と機能について十分な知識が身につくように、わかりやすく講義していきます。							
【到達目標】 言語聴覚障害に関わる疾患や障害を理解するのに必要な人体の解剖学的知識を学びます。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能(医歯薬出版)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 運動器1 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			9	【授業単元】 腎泌尿器系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎臓の構造と働き、および尿の生成について理解する。		
2	【授業単元】 運動器2 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			10	【授業単元】 神経系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
3	【授業単元】 運動器3 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 骨			11	【授業単元】 神経系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
4	【授業単元】 運動器4 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉系			12	【授業単元】 神経系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
5	【授業単元】 運動器5 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉系			13	【授業単元】 神経系4 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
6	【授業単元】 運動器6 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動器系の構造と機能について理解する。 筋肉系			14	【授業単元】 神経系5 【授業形態】 講義 【到達目標】 神経系の構造と機能について理解する。		
7	【授業単元】 腎泌尿器系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 腎臓の構造と働き、および尿の生成について理解する。			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	病理学 (Pathology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 医学博士。長年医学部での研究と教育に携わる。現在は滋慶学園並びに医療系専門学校で基礎医学全般を教授。病気が発症したとき、細胞や組織がどのような変化を起こしているかなど、医学的、科学的知識を習得し、将来的に現場で生かせるようにする。							
【到達目標】 【科目目標(一般目標)】 病態や病名を理解し、医学的知識を習得する上での基礎知識を幅広く身に着ける。							
【使用教科書】系統看護学講座 病理学 医学書院							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】病気の原因 【授業形態】講義 【到達目標】内因、外因を理解する			9	【授業単元】代謝障害 【授業形態】講義 【到達目標】脂質・たんぱく質代謝障害を理解する		
2	【授業単元】細胞・組織の損傷と適応 【授業形態】講義 【到達目標】退行性病変、進行性病変を理解する			10	【授業単元】代謝障害 【授業形態】講義 【到達目標】糖質・その他の代謝障害を理解する		
3	【授業単元】循環障害 【授業形態】講義 【到達目標】全身の血液循環、局所の循環障害を理解する			11	【授業単元】老化と死 【授業形態】講義 【到達目標】加齢に伴う諸臓器の障害を理解する		
4	【授業単元】循環障害 【授業形態】講義 【到達目標】局所の循環障害:血栓、塞栓、梗塞などを理解する			12	【授業単元】先天異常と遺伝子異常 【授業形態】講義 【到達目標】染色体異常と遺伝子異常の原理・疾患を理解する		
5	【授業単元】炎症 【授業形態】講義 【到達目標】炎症、炎症の各型を理解する			13	【授業単元】腫瘍 【授業形態】講義 【到達目標】腫瘍の定義・分類を理解する		
6	【授業単元】免疫、アレルギー 【授業形態】講義 【到達目標】免疫、アレルギー、自己免疫疾患を理解する			14	【授業単元】腫瘍 【授業形態】講義 【到達目標】悪性腫瘍の広がりを理解する		
7	【授業単元】感染症 【授業形態】講義 【到達目標】感染、発症、病原体を理解する			15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】筆記 講義 【到達目標】後半の病理学理解度を確認する		
8	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】筆記 講義 前半の病理学の理解度を確認する			【評価について】 中間試験40点 + 定期試験60点、60点以下を不合格とする			
【特記事項】							

科目名 (英)	生理学 Physiology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医療従事者が必ず学ばなければならない基礎医学の重要分野としての生理学の講義を行います。人の体の機能についての知識を習得し、これから学ぶ言語聴覚士専門科目への基礎及び橋渡しにしてください。講義に際しては、しっかりと予習、復習をして望むことを希望します。							
【到達目標】 人の体の正常な機能を学び、それぞれの項目について説明ができるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 循環器1 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓を中心とした血液循環の仕組みについて学び、理解する。			9	【授業単元】 消化器系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと働きについて理解し、説明できる。 小腸、大腸		
2	【授業単元】 循環器2 【授業形態】 講義 【到達目標】 心臓の構造と機能について理解する。			10	【授業単元】 消化器系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと働きについて理解し、説明できる。 肝臓		
3	【授業単元】 循環器3 【授業形態】 講義 【到達目標】 血圧を含む循環器系について説明ができる。			11	【授業単元】 内分泌系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明できる。 甲状腺、副甲状腺		
4	【授業単元】 呼吸器1 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			12	【授業単元】 内分泌系2 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明できる。 下垂体		
5	【授業単元】 呼吸器2 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			13	【授業単元】 内分泌系3 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明できる。 副腎		
6	【授業単元】 呼吸器3 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸の役割、呼吸の仕組みについて説明できる。			14	【授業単元】 内分泌系4 【授業形態】 講義 【到達目標】 体の恒常性を維持するホルモンの役割について説明できる。 その他		
7	【授業単元】 消化器系1 【授業形態】 講義 【到達目標】 食物を摂取して消化、吸収、排泄されるまでの仕組みと働きについて理解し、説明できる。 食道、胃			15	【授業単元】 定期試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験 解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	内科学 (Internal Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 大学病院、一般病院での臨床経験を持ち、医療系の授業経験を持つ教員が授業を行う。疾病の原因・病態・治療・予防・予後等について疾患に興味を持てるよう、事例、体験談などを取り入れた授業を行う。							
【到達目標】 解剖生理学を理解した上で、人体の機能の正常と異常が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 内科学 配布資料				【授業外における学習】 予習にてわからない専門用語について調べて疑問点などを把握しておいてください。試験対策練習問題を理解して試験に臨んでください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 内科学の概要 代謝疾患(生活習慣病) 【授業形態】 講義 【到達目標】 糖尿病、脂質異常、痛風について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 循環器疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 虚血性心疾患の原因・治療・予防について理解する。先天性心疾患、不整脈について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 呼吸器疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 炎症性、アレルギー性の呼吸器疾患 換気障害(拘束性、閉塞性)肺疾患、特殊な肺疾患 について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 1回から3回までのまとめ 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験、解説				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 消化器疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 消化管疾患の症状、診断、治療について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 血液・腎疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 血液・腎疾患について理解する。(貧血・腎不全)				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 内分泌疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌疾患				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 5回～7回までのまとめ 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験、解説			【評価方法について】 学則の評価基準に準ずる。中間試験40点定期試験60点			
【特記事項】 専門的な内容で、国家試験にも必出ですが授業数が少ないので、その都度覚えるように心がけましょう。生理学・病理学の知識も必要です。練習問題に解説もいれておきますので自己学習も必要です。							

科目名 (英)	小児科学 Pediatrics	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 曜日・時間 日曜日 3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 医師、医学博士、アメリカ合衆国留学などを経験。 小児科学、特に小児神経学専門の医師として40年勤務。医学系・福祉系大学の客員教授・講師なども歴任。脳性麻痺、知的障害、自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害、多動性障害、てんかんなどの診療・リハビリテーションに従事する。学生諸君には受動的ではなく、能動的な講義参加を期待する。授業中にはいつでも質問をしてくまわない。活発な議論を期待する。							
【到達目標】 1. 小児科学の特徴を理解する 2. 小児の保健学を理解する 3. 小児の正常な成長発達過程を理解する 4. 小児STの主たる対象疾患である脳性麻痺、知的障害、自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害、多動性障害などを十分に理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第3版 医学書院				【授業外における学習】 参考となる図書やDVDを、授業中に紹介する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児科学・小児リハビリ学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児科学・小児リハビリ学の特徴を理解する 課題レポートの作成方法について説明する。			9	【授業単元】 小児神経疾患 その4 【授業形態】 講義 【到達目標】 自閉症は頻度が高く、また特有の症状を呈するため、リハビリは複雑である 自閉症とそのリハビリ・生活指導について学ぶ		
2	【授業単元】 小児保健および公衆衛生学 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 日本の出生率 乳児死亡 平均寿命など基礎的な公衆衛生の知識を身につける			10	【授業単元】 小児神経疾患 その5 【授業形態】 講義 【到達目標】 てんかんは頻度が高く、また脳の機能を理解する上でも重要な疾患である てんかんの原因・症状・発作時の対応方法・治療方法について学ぶ		
3	【授業単元】 小児の成長と発達 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 定型的な身体成長および知能運動機能の発達を学ぶ			11	【授業単元】 小児神経疾患 その6 【授業形態】 講義 【到達目標】 注意不足多動性障害(ADHD)、学習障害などについて、特にリハビリの立場に重点を置いて学ぶ		
4	【授業単元】 小児の成長と発達 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 上記に同じ			12	【授業単元】 内部疾患 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の循環器疾患(特に先天性心疾患)について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
5	【授業単元】 新生児と新生児疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 母体内環境から外部環境への劇的な変化とその適応 新生児特有の疾患について学ぶ			13	【授業単元】 内部疾患 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児の呼吸器疾患(特に気管支喘息)について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
6	【授業単元】 小児神経疾患 その1 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害を呈する疾患 特に脳性麻痺は小児のリハビリにおいて重要である 脳性麻痺の原因・症状・リハビリについて学ぶ			14	【授業単元】 内部疾患 その3 【授業形態】 講義 【到達目標】 内分泌・腎臓・消化器などの疾患について、特にリハビリとの関連で学ぶ		
7	【授業単元】 小児神経疾患 その2 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害を呈する疾患 筋ジストロフィー 脊髄性筋萎縮症などについて学ぶ			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 2回のテストは記述式と選択式とを併用で行う予定である。 教科書と授業内容を十分に復習させたい。		
8	【授業単元】 小児神経疾患 その3、中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 知的障害は頻度が高く、小児リハビリにおいて重要である 原因・重症度・リハビリ・生活指導などを学ぶ 知能テストも含む			【評価方法について】 課題レポート 講義進行の中間地点で行う中間40点試験 最後の定期試験60点(点数は合算)より評価する。			
【特記事項】 4月10日、4月24日、5月8日、5月22日、6月5日 3～5限開講							

科目名 (英)	精神医学Ⅰ (PsychiatryⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 臨床心理士・公認心理師として相談支援などに携わっている教員が、精神医学に関する概要やその支援について講義を進めていく。授業内で扱う精神疾患の事例などを通じて臨床像(クライアントがどのような困難を抱えやすい状態であるのか)をとらえられるように提示していく。そのため、疾患に関する内容の定着を深めるためにも想像力をはたかせ、積極的に参加することが望まれる。							
【到達目標】 ①精神機能とその異常について説明することができる。 ②言語聴覚士が関わる精神医学及びその疾患について説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 精神神経疾患ビジュアルブック 学研				【授業外における学習】 予習はテキストを読むことで疾患に関する基本的な概要を確認した上で、授業に臨むことが望ましい。復習は疾患の中で特に重要な箇所を中心に振り返りを行うことが推奨される。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神疾患の分類と精神機能の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 操作的診断分類について説明することができる [ICD10]と[DSM-5]との対応について説明することができる 精神機能について説明することができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 パーソナリティ障害と情動制御 【授業形態】 講義 【到達目標】 パーソナリティ障害の種類と特徴を説明することができる。 情動制御に関わる疾患について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 気分障害と統合失調症 【授業形態】 講義 【到達目標】 気分障害の概要について説明することができる。 統合失調症の概要について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 神経症性障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 不安障害の概要について説明することができる。 強迫性障害の概要について説明することができる。 解離性障害の概要について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 器質と関連する疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知症の概要について説明することができる。 てんかんの概要について説明することができる。 症候性精神障害及びアルコール依存症について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 ストレス系疾患と心身症 【授業形態】 講義 【到達目標】 ストレス反応に基づく精神疾患について説明することができる。 摂食障害、睡眠障害の概要について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 児童期・青年期に関する精神疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達障害及びそれに関連する精神症状について説明することができる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 7回目までの内容の理解度を期末試験を通じて確認する			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は定期試験の100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 重要点を絞って展開するが、授業時間枠内で疾患に関するイメージには個人差が影響するため、具体的なイメージがつかめない場合は、事例系の資料を確認することや質問をすることで定着を深めることが望ましい。							

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1・2限目
【授業の学習内容と心構え】 看護師、鍼灸師の資格を有し、リハビリテーション業務に携わり、大学で授業経験を持つ教員が授業を行う。医療従事者として、リハビリテーションの本質、代表的な対象疾患を学習・理解し、他職種との関わりについて理解する。実際の援助、実技、グループワークを取り入れた授業形態とし、学生自身が考え、行動し、学生間で知識の共有・理解を目指す。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 配布プリント				【授業外における学習】 専門用語の理解			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】リハビリテーション医学概論 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】リハビリテーションの本質の概念と対象について理解する。			9	【授業単元】末梢神経障害のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】顔面神経麻痺、末梢神経障害のリハビリテーションを理解する。		
2	【授業単元】神経学的評価・運動の評価と分析 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】神経学的評価の方法と運動の評価・分析を理解し計測する。			10	【授業単元】脳性麻痺のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】脳性麻痺のリハビリテーションを理解する。		
3	【授業単元】ADL基本動作・移乗動作 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】ADL基本動作・移乗の介助方法を理解する。			11	【授業単元】神経筋疾患のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】神経筋疾患（パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症）のリハビリテーションを理解する。		
4	【授業単元】リハビリテーションゴールとプログラム設定 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】リハビリテーションゴール設定とプログラム設定を理解する			12	【授業単元】脊髄神経障害、骨・関節疾患のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】脊髄神経障害、骨・関節疾患のリハビリテーションを理解する。		
5	【授業単元】理学療法と作業療法 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】理学療法と作業療法について理解する。			13	【授業単元】呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】呼吸器・循環器疾患のリハビリテーションを理解する。		
6	【授業単元】物理療法と実際の援助方法 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】物理療法について理解する。			14	【授業単元】自己免疫疾患・悪性腫瘍のリハビリテーション 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】自己免疫疾患・悪性腫瘍のリハビリテーションを理解する。		
7	【授業単元】脳神経損傷 【授業形態】GW＋講義 【到達目標】脳神経損傷の疾患と障害のリハビリテーションを理解する。			15	【授業単元】 定期試験 解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】中間試験の40点と定期試験の60点で評価する。学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】 は、生理学・病理学の知識が必要となるのでよく復習をすること。							

科目名 (英)	耳鼻咽喉科学 Otolaryngology	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 病院、医療センターにおいて臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士として臨床(病理検査、細胞診)業務に携わり、また臨床検査技師学校および看護学校での教育経験を有する教員が本講義を担当します。これから勉強していく専門科目への基礎及び橋渡しとなる重要科目となりますので、しっかりと予習、復習をして講義に臨んでください。							
【到達目標】 耳鼻咽喉科領域について解剖生理、疾病の概念、症状、治療法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 SUCCESS耳鼻咽喉科				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 鼻科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			9	【授業単元】 口腔・咽頭科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
2	【授業単元】 鼻科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			10	【授業単元】 口腔・咽頭科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
3	【授業単元】 鼻科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			11	【授業単元】 喉頭科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
4	【授業単元】 鼻科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			12	【授業単元】 喉頭科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
5	【授業単元】 鼻科学5 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			13	【授業単元】 喉頭科学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
6	【授業単元】 口腔・咽頭科学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			14	【授業単元】 喉頭科学4 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。		
7	【授業単元】 口腔・咽頭科学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔・咽頭疾患の概念、症状、治療法について説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験40点、定期試験60点により評価する。			
【特記事項】 中間試験、定期試験実施後はまとめ等の講義を行います。							

科目名 (英)	臨床神経学 (Clinical Neurology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 1. 2限目
【授業の学習内容と心構え】 大学病院で言語障害・聴覚障害・嚥下障害を持った方に実際に接してきた教員が、臨床現場での経験を活かし、脳神経疾患を脳神経の正常な機能と関連付けで きる授業を行う。大学、専門学校での授業経験を活かし、学生主体のグループワークを取り入れた授業形態とし、学生自身が考え、学生間での知識の共有を目 指す。神経系の構造・機能・病態で学んだ内容を復習をして授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 脳神経の構造・機能・病態で学んだ知識をもとに、脳神経にに關する疾患を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版 言語聴覚士テキスト				【授業外における学習】 予め授業範囲の教科書を目を通して、疑問点を明らかにしておくこと			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】脳血管障害の基本理念 脳卒中 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳血管障害の分類を説明することが出来る。 脳卒中の症状を述べる事が出来る。	9	【授業単元】頭部外傷 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 頭部外傷の部位による症状について説明することが出来る				
2	【授業単元】脳梗塞・一過性脳虚血 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳梗塞について説明することが出来る。 一過性脳虚血発作について説明することが出来る。	10	【授業単元】認知症 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 認知症について説明することが出来る				
3	【授業単元】脳内出血・脳動脈瘤 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳内出血について説明することが出来る。 脳動脈瘤について説明することが出来る。	11	【授業単元】神経変性疾患(パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 パーキンソン病について説明することが出来る 筋萎縮性側索硬化症について説明することが出来る。				
4	【授業単元】くも膜下出血・脳血管疾患のリハビリテーション 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 くも膜下出血について述べる事が出来る。 脳血管疾患のリハビリテーションについて説明することが出来る。	12	【授業単元】末梢神経障害(ニューロパチー・ギランバレー症候群) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 末梢神経障害(ニューロパチー)について説明することが出来る ギランバレー症候群について説明することが出来る				
5	【授業単元】水頭症・頭蓋内圧亢進症・脳ヘルニア 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 水頭症について説明することが出来る。 頭蓋内圧亢進症状について説明することが出来る。 脳ヘルニアについて説明することが出来る。	13	【授業単元】筋疾患(筋ジストロフィー・重症筋無力症) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 筋ジストロフィーについて説明することが出来る。 重症筋無力症について説明することが出来る。				
6	【授業単元】脊髄疾患・脊髄損傷 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脊髄の構造・機能について説明できる。 脊髄損傷の部位による症状を説明することが出来る。	14	【授業単元】 てんかん 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 てんかんについて説明することが出来る				
7	【授業単元】脳腫瘍 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳腫瘍の分類を説明することが出来る。	15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験60点満点 60%で合格				
8	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】筆記試験 【到達目標】 筆記試験40点満点 60%で合格	【評価について】 試験規定に準ずる					
【特記事項】 毎回授業のワークシートを見て作成しましょう。中間、定期試験の直後にわから なかった問題について確認しましょう。							

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅰ (Anatomy and physiology of respiratory phonation and speech system)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 日曜日 3, 4, 5時限
【授業の学習内容と心構え】 医療・福祉機関で長年にわたり小児～成人の呼吸発声発語障害児(者)の臨床経験を積み、神経筋疾患に起因する発声発語障害の臨床研究論文を執筆してきた教員が、呼吸・発声・発語系の構造・機能について理解を深められるように解剖生理学的知識を習得する授業を行なう。具体的に、解剖生理学的イメージを抱けるように呼吸発声発語障害児(者)の言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、教授する。呼吸・発声・発語のメカニズムを専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。言語聴覚士にとって必須の専門基礎知識であり、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで提供するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 呼吸・発声・発語の構造と機能を図と対比させて、説明できる。 呼吸機能障害・音声障害・構音障害・摂食嚥下障害を理解するための解剖・生理学的な専門基礎知識を習得し、病態を説明できる。 また、医学的な知識に裏づけられた評価や指導法の必須基礎技術を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 発声発語障害学第3版(医学書院)・配布資料				【授業外における学習】 毎回、国家試験の過去問題を含めた練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。			
回	授 業 概 要						
1	【授業単元】 呼吸①気道と肺の構造 【授業形態】 講義 【到達目標】 気管・気管支・肺の構造と機能を説明できる	9 【授業単元】 鼻咽腔の構造と鼻咽腔閉鎖機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻咽腔の構造と鼻咽腔閉鎖機能に関与する筋の名称と作用、支配神経を説明できる。また、正常な鼻咽腔閉鎖機能の動態を内視鏡動画を視て、説明できる。					
2	【授業単元】 呼吸②呼吸機構の仕組み 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 胸郭の構造と病態(胸郭変形)を説明できる。胸郭変形の臨床所見をみて、病態を判断できる。	10 【授業単元】 鼻咽腔閉鎖不全に起因する開鼻声と子音の歪み 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 口蓋裂術後と神経筋疾患による鼻咽腔閉鎖不全に起因する開鼻声と子音の歪みが生じるメカニズムを説明できる。また、鼻咽腔閉鎖機能検査法を実施できる。					
3	【授業単元】 呼吸③呼吸メカニズムを担う呼吸筋の作用 【授業形態】 講義 【到達目標】 主呼吸筋と補助呼吸筋を説明できる。吸気と呼気の作用メカニズムを説明できる。ポンプハンドル・モーションとバケットハンドル・モーション胸郭変形の臨床所見をみて、病態を判断できる。	11 【授業単元】 構音①構音器官の構造と舌筋群の作用 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 構音器官の構造名称と内舌筋群と外舌筋群の名称と作用、支配神経を説明できる。また、舌運動障害の検査法を実施できる。					
4	【授業単元】 呼吸④呼吸機能検査について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 肺機能検査(スパイロメトリー)の実施方法を理解し、結果の解釈ができる。拘束性換気障害と閉塞性換気障害の違いについて説明できる。発声に必要な呼吸機能検査を演習し、技法を習得する。	12 【授業単元】 構音②表情筋の作用 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 表情筋の名称と作用、支配神経を説明できる。また、表情筋群の中でも上部表情筋と下部表情筋の神経支配の様式が異なることを説明できる。さらに、構音に関与する口唇・頬の運動障害の検査法を実施できる。					
5	【授業単元】 喉頭①喉頭の軟骨と関節、内喉頭筋 【授業形態】 講義 【到達目標】 喉頭を構成する軟骨と関節の名称と部位を説明できる。さらに声帯運動の開閉や声帯の伸長に関与する内喉頭筋の名称と作用を図示しながら説明できる。内喉頭筋の支配神経について説明できる。	13 【授業単元】 構音③構音障害と摂食嚥下障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児と成人の構音障害と摂食嚥下障害を起こす原因疾患を列挙できる。また、小児と成人の構音障害と摂食嚥下障害を合併する症例を動画で提示し、病態を解釈できる。					
6	【授業単元】 喉頭②外喉頭筋と咀嚼筋の協調運動 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 喉頭挙上や固定さらに開口・閉口運動を行う外喉頭筋と咀嚼筋の協調運動のメカニズムを説明できる。また、嚥下運動に関与するスクリーニングテストの技法を習得し、結果を解釈できる。	14 【授業単元】 摂食嚥下のメカニズムと病態 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食嚥下運動の5ステージおよび誤嚥のリスクについて説明できる。さらに、VF嚥下造影検査の実施方法と誤嚥所見から、誤嚥の病態分類を判定できる。					
7	【授業単元】 喉頭③声帯の構造と音声障害の原因疾患 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 声帯の微細構造と音声障害の原因疾患の関連を説明できる。さらに、代表的な原因疾患の喉頭内視鏡動画を視ながら、嚙声や声の高さの異常などの音声サンプルを聴取し、各疾患の特徴を説明できる。	15 【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。					
8	【授業単元】 喉頭④VE嚥下内視鏡検査・中間試験 【授業形態】 講義・演習・試験 【到達目標】 VE嚥下内視鏡検査の実施方法と嚥下障害症例の特徴を説明できる。第1回～第8回の内容を筆記試験し、解答・解説し、不明・誤った問題を解けるように修正し、理解する。	【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅰ (Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 1・2限目
【授業の学習内容と心構え】 大学病院で言語障害・聴覚障害・嚥下障害を持った方に実際に接してきた教員が、臨床現場での経験を活かし、臨床現場に必要な脳神経の正常な形態・構造・機能を学生がイメージしやすい日常生活に例えながら授業を行う。大学、専門学校での授業経験を活かし、個人ワーク・グループワークを取り入れた授業形態とし、学生が自ら考え、学生間での知識の共有を目指す。類似した専門用語が多いため予習復習をして授業に臨んでください。							
【到達目標】 脳神経の構造・形態・機能を述べる事が出来る。言語聴覚士として必要な言語・聴覚・嚥下に関連する脳の構造・機能を述べる事が出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】 人体の構造と機能 病気がみえる Vol.7 脳・神経 言語聴覚士テキスト				【授業外における学習】 授業範囲の配布資料に目を通して、疑問点を明らかにしておくこと 試験対策練習問題を理解しておくこと			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】神経系の全体像 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 中枢神経と末梢神経の違いを述べる事が出来る。			9	【授業単元】末梢神経(運動・感覚・自律神経) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 末梢神経の分類について説明することが出来る。 運動の調節について説明することが出来る。 自律神経の主な機能について説明することが出来る。		
2	【授業単元】 ニューロンの解剖・機能 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 ニューロンの解剖・機能を説明することが出来る。 シナプスにおける神経伝達の仕組みを説明することが出来る。			10	【授業単元】 脳神経 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳神経の名称を述べる事が出来る。 脳神経の構造・機能を説明することが出来る。		
3	【授業単元】 大脳機能の全体像 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 大脳の解剖・機能を説明することが出来る。 機能局在について説明することが出来る。			11	【授業単元】運動の異常と麻痺 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 随意運動と筋緊張について説明することが出来る。 運動の障害について述べる事が出来る。		
4	【授業単元】 大脳辺縁系・大脳基底核・間脳・小脳・脳幹 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 大脳辺縁系の解剖・機能を説明することが出来る。 大脳基底核の解剖・機能を説明することが出来る。 間脳・小脳・脳幹の解剖・機能を説明することが出来る。			12	【授業単元】高次脳機能(意識) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 意識について説明することが出来る。		
5	【授業単元】脳構造の立体的理解 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳の構造を立体的に説明することが出来る。			13	【授業単元】高次脳機能(言語・失語) 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 人間の言語の特殊性について述べる事が出来る。 失語の分類について説明することが出来る。		
6	【授業単元】 脳血管の解剖 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 脳血管の構造・機能について説明することが出来る。			14	【授業単元】記憶の分類について 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 記憶の分類について説明することが出来る。		
7	【授業単元】 脳脊髄液 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 脳脊髄液の解剖・機能について説明することが出来る。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験 講義 【到達目標】 筆記試験60点満点 60%で合格		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験 講義 【到達目標】 筆記試験40点満点 60%で合格			【評価について】 中間試験(筆記試験)40点満点、定期試験(筆記試験)60点満点 試験規定に準ずる。			
【特記事項】 毎回 神経のイメージを日常生活にあてはめて考えてみましょう。							

科目名 (英)	生涯発達心理学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Life-long Developmental PsychologyⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士であり、乳児期から老年期までの臨床経験を持つ教員が授業を担当する。 ヒトは胎児期、乳児期、児童期、青年期、老年期には、その時期に特有な心の働きがみられる。生まれてから死ぬまでどのように発達するのか、発達段階の特徴とその時期の課題を整理し、臨床に結び付け知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 発達心理学の用語、発達理論の基礎を理解する。 発達心理学が言語聴覚士にとってなぜ必要であるのか理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学				【授業外における学習】 小テストを実施しますので復習を心がけてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 心理学の流れと生涯発達心理学の位置づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・オリエンテーション ・生涯発達心理学の成り立ちを説明できる。			9	【授業単元】 青年期の親子関係・友人関係・仲間関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・思春期の心と体の変化を説明できる。 ・思春期～青年期の対人関係の発達を説明できる。 ・自我同一性を説明できる。		
2	【授業単元】 発達の規定要因について 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・人間の発達に影響する諸説を整理する。 ・発達心理学に関連する理論の概要を説明できる。 ・臨界期について説明できる。			10	【授業単元】 青年期の知的機能 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・青年期の知的機能の特徴を説明できる。 ・青年期の記憶の発達とメカニズム説明できる。 ・子どもの特性に合わせた進学先説明できる。		
3	【授業単元】 発達理論① ピアジェの認知発達理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・ピアジェの発達段階を説明できる。 ・ピアジェの認知発達観を説明できる。			11	【授業単元】 成人期の職業生活・家族生活・ワークライフバランス 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・成人期の発達を説明できる。 ・ワークライフバランスを説明できる。		
4	【授業単元】 発達理論② エリクソンの発達理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・エリクソンの発達理論と発達課題を説明できる。 ・フロイトの精神分析学(心理学的発達理論)を説明できる。			12	【授業単元】 老年期のエイジングと生きがい、知的機能の変化 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・老年期の発達を説明できる。 ・老年期の知的機能・身体機能を説明できる。 ・認知症を説明できる。		
5	【授業単元】 乳幼児期の知覚・認知発達、アタッチメント(愛着) 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・乳幼児の認知発達とその研究方法を説明できる。 ・アタッチメントの発達を説明できる。			13	【授業単元】 人の生きる意味と死の受容 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・「人の生きる意味」についてディスカッションを行う。 ・死の受容、死の準備教育、ホスピスケアを説明できる。		
6	【授業単元】 子どもの遊びと社会的認知の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・遊びの発達を説明できる。 ・社会的認知の発達を説明できる。			14	【授業単元】 講義の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・これまでの授業の復習を行う。		
7	【授業単元】 言語聴覚士と生涯発達心理学の関係性・授業前半の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・遊びの発達を説明できる。 ・社会的認知の発達を説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 ・中間試験(40点満点) ・定期試験(60点満点) ・中間試験と定期試験の合計100点満点で、評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	学習・認知心理学 (Learning Cognitive Psychology)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として障害児療育および介護予防分野で心理学的な実践と研究を長年行ってきた教員が授業を担当する。 本講義は、「学習心理学」「認知心理学」の内容となる。学習心理学では、人間の行動獲得のメカニズムを知ること、行動理解や行動変容の手がかりを学ぶ。認知心理学では、人間がどのように外界の刺激を処理したり記憶したりしているのかを学ぶ。すなわち、人間理解の基盤を学ぶ科目といえる。授業に毎回出席し、必ず復習をして知識を確実に定着させてほしい。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な学習心理学、認知心理学の知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)				【授業外における学習】 毎回の講義後に家庭学習として必ず復習をし、内容の理解と知識の定着を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 オリエンテーション、認知心理学とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知心理学の概要を理解する。外界の刺激を捉えるプロセスについて説明できる。			9	【授業単元】 学習心理学とは、条件づけ(1)古典的条件づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 学習心理学の概要を理解する。古典的条件づけについて説明できる。		
2	【授業単元】 感覚の特性 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚の種類、限界について説明できる。			10	【授業単元】 条件づけ(2)オペラント条件づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 古典的条件づけとの違いを明確にしながら、オペラント条件づけについて説明できる。		
3	【授業単元】 知覚の特性(1)形の知覚、恒常性知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 形の知覚、恒常性知覚について説明できる。			11	【授業単元】 社会的学習、問題解決学習 【授業形態】 講義 【到達目標】 観察学習、模倣学習、試行錯誤、洞察について説明できる。		
4	【授業単元】 知覚の特性(2)奥行き知覚、運動知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 奥行き知覚の要因、主な4つの運動知覚について説明できる。			12	【授業単元】 欲求と動機づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 欲求の種類と階層性、内発/外発的動機づけについて説明できる。		
5	【授業単元】 記憶(1)プロセス、分類 【授業形態】 講義 【到達目標】 記憶のプロセス、感覚/短期/長期記憶の各特性について説明できる。			13	【授業単元】 技能学習 【授業形態】 講義 【到達目標】 技能学習のプロセスおよび学習の転移について説明できる。		
6	【授業単元】 記憶(2)特徴的現象、忘却 【授業形態】 講義 【到達目標】 系列位置効果、忘却過程と忘却の要因について説明できる。			14	【授業単元】 まとめと復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの内容について相互に関連づけながら説明できる。		
7	【授業単元】 思考 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題解決的思考、推理について説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 全14回の内容について確実に理解しておく。		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 第1回～7回までの内容について確実に理解しておく。			【評価について】 中間試験(40点満点) 実施方法:筆記試験 定期試験(60点満点) 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	心理測定法Ⅰ (Psychological Measurement Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として障害児療育および介護予防分野で心理学的な実践と研究を長年行ってきた教員が授業を担当する。 本講義の内容は、言語聴覚療法の臨床現場で用いられる検査法の基礎となる。心理学領域の中ではもともと数学寄りの内容となるが、理解すれば面白くなる はずである。 授業に毎回出席し、必ず復習をして知識を確実に定着させること。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な心理現象の測定方法に関する知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学(医歯薬出版)、言語聴覚士テキスト第3版(医歯薬出版)				【授業外における学習】 毎回の講義後に家庭学習として必ず復習をし、内容の理解と知識の定着を図ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 オリエンテーション、心理測定法とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 心理測定法および今後の授業内容の概要を理解する。			9	【授業単元】 測定の妥当性と信頼性 【授業形態】 講義 【到達目標】 測定の重要条件である妥当性、信頼性およびその関係について説明できる。		
2	【授業単元】 代表値と散布度 【授業形態】 講義 【到達目標】 主な代表値と散布度について説明できる。			10	【授業単元】 質問紙法と社会調査 【授業形態】 講義 【到達目標】 検査や社会調査などに頻繁に使用される質問紙法について特徴を説明できる。		
3	【授業単元】 4つの尺度水準 【授業形態】 講義 【到達目標】 スティーブンスによる4つの尺度水準について各水準の特徴を説明できる。			11	【授業単元】 評定法 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な評定法について説明できる。		
4	【授業単元】 統計(1)相関と回帰 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 相関および回帰の概念と相関係数および回帰係数について説明できる。 また、統計ソフトを用いた係数の算出の仕方を身につける。			12	【授業単元】 信号検出理論 【授業形態】 講義 【到達目標】 知覚判断のモデル、信号検出理論について説明できる。		
5	【授業単元】 統計(2)統計的仮説検定 【授業形態】 講義 【到達目標】 統計的仮説検定の概念と代表的な検定について説明できる。			13	【授業単元】 まとめと復習① 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの内容について相互に関連づけながら説明できる。		
6	【授業単元】 精神物理学的測定法(1)測定する感覚量 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神物理学的測定法の概念と測定する代表的な感覚量について説明できる。			14	【授業単元】 まとめと復習② 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの内容について相互に関連づけながら説明できる。		
7	【授業単元】 精神物理学的測定法(2)測定方法 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚量を測定する代表的な方法について説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 全14回の内容について確実に理解しておく。		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 第1回～7回までの内容について確実に理解しておく。			【評価について】 中間試験（40点満点） 実施方法：筆記試験 定期試験（60点満点） 実施方法：筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語学 I Linguistics I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 [担当教員紹介: 東京大学で言語学を学び、それに基づいた実務として人間のコミュニケーション一般/スラヴ語の具体的な表現に関する研究を続けている教員が授業を担当する。] [授業の学習内容: 言語聴覚士にとってなぜ言語学的な視点が必要なのかを理解し、その視点を現場での言語観察に活かすことができるようになることを目標とする。] [学習にあたっての心構え: 馴染みのない概念が多数出現するので、一つ一つの用語の意味を見失わないように注意しながら復習をすることが望ましい。]							
【到達目標】 (1)言語聴覚士にとってなぜ言語学の考え方が必要なのかを理解し、説明できるようになること。 (2)実際の言語コミュニケーションにおいて、自分の力で言語現象を観察し、分析することができるようになること。							
【使用教科書・教材・参考書】 風間喜代三ほか(編著)『言語学[第2版]』(東京大学出版会)				【授業外における学習】 講義に登場した概念を用いて、「言語を観察する」という営みを日常的に実践してみてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語学的に考える 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語学という分野がどのような研究分野であり、それがなぜ言語聴覚士にとって必要なのかを理解する。			9	【授業単元】 統語論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 「談話」「文」「節」「句」「語」という概念を説明することができるようになる。 述語と項、格の概念を理解する。		
2	【授業単元】 言語知識 【授業形態】 講義 【到達目標】 「ラング」「パロール」という概念を理解し、説明できるようになる。パロールに基づいてラングを推測するという考え方に慣れる。			10	【授業単元】 統語論(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 文法関係(主語、述語、目的語など)とヴォイス(能動、受動など)を理解する。日本語のテンス、アスペクト、モダリティの区別をできるようになる。		
3	【授業単元】 人間の言語の特徴 【授業形態】 講義 【到達目標】 人間が用いるコミュニケーションツールとしての「言語」が、他の動物の用いるそれと比べて、どの点が共通していて、どの点が異なっているのかを理解すること。			11	【授業単元】 意味論 【授業形態】 講義 【到達目標】 言葉が持っているいわゆる「辞書的な意味」について理解する。その上で、項どうしの意味的関係を説明できるようになる。		
4	【授業単元】 音韻論と音声学 【授業形態】 講義 【到達目標】 音素と音声の違いを説明できるようになる。 「異音」という概念を「音素」との関係のもとで説明できるようになる。			12	【授業単元】 語用論 【授業形態】 講義 【到達目標】 「会話においては、第11回で扱った『辞書的な意味』を超える内容が伝達されることがある」という理解の仕方に慣れる。 日本語の敬語の体系を理解する。		
5	【授業単元】 形態論(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 「形態素」という概念を説明できるようになる。 日常的な語を形態素に分解できるようになる。			13	【授業単元】 日本語の語彙 【授業形態】 講義 【到達目標】 日本語の語彙の特徴を理解する。 漢字について理解する。		
6	【授業単元】 形態論(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 語形成という概念を理解し、その種類を挙げられるようになる。			14	【授業単元】 日本語の文法 【授業形態】 講義 【到達目標】 日本語の文法の特徴を理解する。 他の言語と比較した場合の日本語の特徴を知る。		
7	【授業単元】 形態論(3) 【授業形態】 講義 【到達目標】 語形変化という概念を、日本語の語の活用を通じて理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 自らの学習状況を把握する。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 自らの学習状況を把握する。			【評価方法について】 中間試験:40% 定期試験:60%			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声学 Phonetics	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 1時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 [担当教員紹介: 音声学の知見を含む幅広い言語学的知識に基づき、人間のコミュニケーション一般／スラヴ語の具体的な表現に関する研究を多数発表している教員が授業を担当する。[授業の学習内容: 実際の音声を書いたり、自ら発音したりすることを通じて、音声学の基礎知識を具体的な形で身につけることを目標とする。[学習にあたっての心構え: 普段から行なっているコミュニケーションにおいて、自分がどのような音声を用いているのかを客観的に把握するよう努める。]							
【到達目標】 (1)「コミュニケーションにおいて伝達される意味内容と、それを伝達するために用いられる音声そのものとを切り分けて考える」という言語学独特の考え方に慣れること。 (2)人間がコミュニケーションに用いる音声を、実際に耳で聞いて分類したり、自覚的に発音したりできるようになること。 (3)実践を通した理解に基づき、聞き取りや発音における障害がなぜ障害と呼ばれることになるのかを理解すること。							
【使用教科書・教材・参考書】 斎藤純男(著)『日本語音声学入門【改訂版】』(三省堂)				【授業外における学習】 アナウンサーの声や店員の話し方、通勤・通学中に聞こえてくる会話などに耳を傾け、この講義で学んだ知識を日常の中で「経験する」よう努めてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】音声学の概要 【授業形態】講義 【到達目標】 音声学という分野では人間が口から出す音を要素に分けて分類する。その分類のあり方を知り、この分野の雰囲気を知る。 調音器官の機能とその名称を理解する。			9	【授業単元】音声と音韻 【授業形態】講義 【到達目標】 音声学と音韻論の関係を理解する。 「音声」と「音素」の違いを説明できるようになる。 「異音」とは何かを説明できるようになる。		
2	【授業単元】単音(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 言語に用いる音声を「子音」と「母音」に分けるという考え方を学ぶ。			10	【授業単元】音節とモーラ 【授業形態】講義 【到達目標】 音節とモーラ概念を理解する。 日本語の単語を例とし、音節とモーラをそれぞれ数えられるようになる。		
3	【授業単元】単音(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 子音の発音の仕組みを知る。「調音点」「調音法」という概念を理解し、それを元に「破裂音」「ふるえ音」「はじき音」を聞き分けたり自ら発音したりできるようになる。			11	【授業単元】日本語の音声(1) 【授業形態】講義 【到達目標】 日本語の子音と母音について、音素と異音を記述できるようになる。		
4	【授業単元】単音(3) 【授業形態】講義 【到達目標】 子音の発音の仕組みを知る。「摩擦音」と「接近音」を聞き分けたり自ら発音したりできるようになる。			12	【授業単元】日本語の音声(2) 【授業形態】講義 【到達目標】 「特殊モーラ」という概念を理解する。 「撥音」「促音」「長音」の典型例と、その異音を聞き分けられるようになる。		
5	【授業単元】単音(4) 【授業形態】講義 【到達目標】 子音の発音の仕組みを知る。「二重調音」と「二次的調音」という概念を理解し、第4回までに登場した音声に適用できるようになる。			13	【授業単元】日本語の音声(3) 【授業形態】講義 【到達目標】 音声の並び方によってどのように変化するのかを理解する。 第12回までに登場した異音が出現する条件を理解し、説明できるようになる。		
6	【授業単元】単音(5) 【授業形態】講義 【到達目標】 母音の発音の仕組みを知る。母音が「舌の位置」「唇の形」によって分類されることを理解し、それを聞き分けたり発音したりできるようになる。			14	【授業単元】アクセント・イントネーション 【授業形態】講義 【到達目標】 「アクセント」と「イントネーション」の違いを説明できるようになる。 日本語の東京方言のアクセント・パターンを理解する。		
7	【授業単元】単音(6) 【授業形態】講義 【到達目標】 第6回までに登場した音声を国際音声字母(IPA)によって表記できるようになる。			15	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 自らの学習状況を把握する。		
8	【授業単元】中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 自らの学習状況を把握する。			【評価方法について】 中間試験: 40% 定期試験: 60%			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚心理学Ⅰ (Psychoacoustics Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 大学・研究機関において人間の音声言語を対象とした音声学に関する実験・研究経験を有する教員が、言語聴覚士を目指すために、ひいては国家試験合格のために必須である音声言語に関する聴覚心理学の基礎的な知識を習得する授業を行う。 音声学や音響学といった関連分野の知識も踏まえつつ、音声について様々な角度から考えることを意識して受講してほしい。 講義がメインとなる授業であるため、復習を十分におこない毎回の授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 聴覚心理学の基礎用語を使って、さまざまな音の聴覚的特徴について説明ができる。 デシベルやゾーン、フォンなどの単位の基本的な特徴を正しく理解し、それらにまつわる計算問題が解けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 吉田友敬(2020)『言語聴覚士の音響学入門 2訂版』海文堂。 別途、プリントを配布する。				【授業外における学習】 聴覚心理学分野の専門用語が出てくるので、事前に教科書を読み、予習しておくこと。講義後は復習を行い、確実に定着させること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音の大きさと音圧と周波数の基本的な関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の音響的特徴である周波数、音圧について理解する。 音の聴覚的特徴である音の大きさについて理解する。 音の物理的特徴と聴覚的特徴の基本的な関係が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 等ラウドネス曲線、音の大きさの知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 等ラウドネス曲線の読み方を理解する。 フォンとゾーンの違いを習得し、説明ができる。 フォンとゾーンを使った計算問題が解ける。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 音の高さの知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の高さと周波数の関係を理解する。 メルと周波数の違いを習得し、それらを使った計算問題が解ける。 純音や複合音、短音といったさまざまな種類の音の高さの近くについて理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 マスキング 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の高さと周波数の関係を理解する。 メルと周波数の違いを習得し、それらを使った計算問題が解ける。 純音や複合音、短音といったさまざまな種類の音の高さの近くについて理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 デシベルの基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 デシベルがどのような単位であるか、正しく理解し習得する。 音の大きさと音の強さの関係について理解する。 基準値の違いによるさまざまなデシベルの種類を理解し、その違いを説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 デシベルの計算 【授業形態】 講義 【到達目標】 デシベルと音の強さ、音圧の関係について正しく理解する。 デシベルを使った計算問題に慣れ、習得する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した、基礎知識・専門的知識の理解・定着度、およびその応用能力を確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 講義内容は適宜教科書や配布プリントにメモをとり、補うこと。							

科目名 (英)	言語発達学Ⅰ (Speech DevelopmentⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、小児発達支援に携わってきた教員が授業を行う。単にコミュニケーションの手段で有るだけでなく言語を用いて思考し行動調整の機能を持つ。 言語発達はすべての発達要因を基になりたつものであり、臨床に於ける言語聴覚障害児・者理解の基礎である。							
【到達目標】 前言語期から言語期の発達段階それぞれの言語発達の特徴を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第2版 (医学書院)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】Ⅰ 言語発達の基礎的問題の理解 【授業形態】講 義 【到達目標】1 ことばの定義 2 ことばの獲得			9	【授業単元】Ⅴ 1～2歳(単語獲得期) 【授業形態】講 義 【到達目標】1 初語・始語・有意味語 2 語彙の発達 3 第一期言語獲得期		
2	【授業単元】Ⅰ 言語発達の基礎的問題の理解 【授業形態】講 義 【到達目標】3 ことば・言語・コミュニケーション 4 動物のコミュニケーション 5 ことばの機能・要素			10	【授業単元】Ⅴ 1～2歳(単語獲得期) 【授業形態】講 義 【到達目標】4 構文の発達 5 語の意味理解の発達 6 ことばの発達を支えるもの		
3	【授業単元】Ⅱ 言語獲得理論 【授業形態】講 義 【到達目標】1 学習理論 2 生得理論			11	【授業単元】Ⅵ 幼児期(構文獲得期) 【授業形態】講 義 【到達目標】1 幼児期のことばの特徴 2 一応のことばの達成期 3 第二期言語獲得期		
4	【授業単元】Ⅱ 言語獲得理論 【授業形態】講 義 【到達目標】3 認知論 4 社会相互作用論 5 情報処理理論			12	【授業単元】Ⅵ 幼児期(構文獲得期) 【授業形態】講 義 【到達目標】4 語彙・構文の発達 5 談話の発達 6 文字関心期		
5	【授業単元】Ⅲ ことばの発達の道筋 【授業形態】講 義 【到達目標】1 ことばの発達の特徴 2 ことばの発達段階			13	【授業単元】Ⅶ 児童期(学童期) 【授業形態】講 義 【到達目標】1 話し言葉の発達 2 生活言語・学習言語		
6	【授業単元】Ⅳ 前言語期 【授業形態】講 義 【到達目標】1 新生児の能力 2 聴く行動 3 発信行動			14	【授業単元】Ⅶ 児童期(学童期) 【授業形態】講 義 【到達目標】3 書きことばの発達 4 コミュニケーションの発達		
7	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験			15	【授業単元】定期試験・解説 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験		
8	【授業単元】Ⅳ 前言語期 【授業形態】講 義 【到達目標】4 理解の発達 5 ことばの発達を支えるもの			【評価について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会保障制度・関係法規Ⅰ Social Security System・Related LawsⅠ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 急性期から維持期にて言語聴覚士の経験を持つ教員が、言語聴覚士にとって必須な「社会保障制度・関係法規」の知識を教授する。ここでは言語聴覚士が専門職として働くうえで知っておくべき社会保障制度や法律について学ぶ。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な社会保障制度・関係法規の基礎知識を理解して修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 第3版、配布資料				【授業外における学習】 予習・復習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 社会保障制度とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 我が国の社会保障制度のしくみが理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 社会福祉法 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会福祉六法について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 年金制度・雇用保険及び労災制度 【授業形態】 講義 【到達目標】 公的年金制度や雇用保険・労災制度の基礎知識について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットできる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 医療保険・障害者総合支援法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 医療保険・障害者総合支援法の基礎知識について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 介護保険制度・地域包括ケアシステム 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 介護保険・地域包括ケアシステムの基礎知識について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 言語聴覚法及び医療関係法規 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 言語聴覚法やそれに関わる法規の基礎知識について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 ここまで学んだ内容をアウトプットできる			【評価について】 評価は、筆記試験で行う。授業で確認した専門的な知識の理解、定着度を確 認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点 で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論Ⅰ (Introduction to Speech and Hearing Disabilities Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 2・3時限
【授業の学習内容と心構え】 超急性期から超慢性期の言語障害を負われた方達と病院、クリニック、保健・福祉センター、当事者と家族の会等に関わってきた経験をもとに授業を行う。現在の所属である急性期病棟の現場にはどのような患者様がいらして、どのような状態で回復期リハビリテーション病棟に転院されるのか、回復期後の慢性期(生活期)に自主グループや友の会でどのような活動をされているか、等々、日々タタとして直面している、いまそこにある課題を伝えていく。授業では現場を強くイメージし、何のために知識を習得するのかを理解するよう努めてほしい。							
【到達目標】 言語聴覚障害を負われた方達の立場を想像する力を養う 言語聴覚障害の中での失語症の位置づけを理解し、その定義、特徴を説明できる 失語症の診断・訓練に非常に有用な脳画像の特徴、疾患の特徴を説明できる 失語症には複数のタイプがあり、それぞれに異なった特徴があることを説明できる							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚障害総論Ⅰ・Ⅱ(建邦社)、配布資料				【授業外における学習】 多くの新しい用語に出会うため、各用語の定義を次回授業までに復習すること。定義を曖昧にしないよう心掛け、その定義を患者様とご家族に説明できるレベルを目標にしてほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 対人援助職におけるコミュニケーションの重要性 【授業形態】 講義 【到達目標】 対人援助職として必要とされることは何か説明できる 障害者を取り巻く4つの障壁を具体的に述べるができる ユニバーサルデザインの7原則を説明できる			9	【授業単元】 失語症のタイプ分類① 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症と診断されても症状は大きく異なることを知る 代表的な失語症のタイプ(ブローカ失語、ウエルニッケ失語)を説明できる		
2	【授業単元】 言葉が表出・理解されるまでの流れと障害の種類 【授業形態】 講義 【到達目標】 コミュニケーション障害の4つの段階を理解し説明できる 障害を予測するツールとしての脳画像の有用性を知る			10	【授業単元】 失語症のタイプ分類② 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な失語症のタイプ(伝導失語、失名詞失語)を説明できる		
3	【授業単元】 失語症の症状と原因疾患① 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語障害の一つである失語症の定義を説明できる 失語症を引き起こす原因疾患の種類を説明できる			11	【授業単元】 失語症のタイプ分類③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な失語症のタイプ(超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、超皮質性混合失語)を説明できる		
4	【授業単元】 失語症の症状と原因疾患② 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の症状と脳卒中の起こる部位、言語関連領域との関係について説明できる			12	【授業単元】 失語症のタイプ分類④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な失語症のタイプ(全失語)を説明できる それぞれのタイプを比較検討できる		
5	【授業単元】 失語症の症状と原因疾患③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳卒中の種類、損傷部位、損傷の大きさによって失語症の経過が異なることが説明できる			13	【授業単元】 失語症の評価① 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の総合的な評価・検査にはどのような種類があるか説明できる		
6	【授業単元】 失語症の症状と原因疾患④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の重症度、脳卒中の重症度によって対応の仕方が異なることを説明できる 失語症がある方とのコミュニケーションのコツを理解できる			14	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症のタイプ分類とその評価法についての総復習		
7	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの内容を総復習し、漠然とした理解であった知識を、臨床で使える確実な知識に変える			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 授業で扱ったすべての内容を対象とした試験を行う		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 授業で扱ったすべての内容を対象とした試験を行う			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業及び小テストで実施した内容をきちんと習得できたかどうかを確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 小テストは必要な回数を実施する。毎回の授業で用意するプリントが学習の主体となるため、自分でメモを加えていくことを推奨する。							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論Ⅰ (Introduction to Speech and Hearing Disability)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 日曜日 3・4・5時限
【授業の学習内容と心構え】 医療機関で長年にわたり言語聴覚士として小児～成人の言語聴覚障害の臨床経験を積み、現在は児童発達支援センターの施設長として、医療・福祉・教育機関との連携や施設の運営管理にも携わっている教員が、言語聴覚士の仕事や必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。医療・福祉・教育機関の言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語聴覚療法のイメージをリアルに抱けるように教授し、各定義や専門用語を言語化して説明できるようになることを目標とする。自己の専門職への志望動機を高め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。また、毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 言語聴覚士法に則って、臨床業務の内容を言語化して、説明できる。 言語聴覚士の対象とする全ての障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための解剖・生理学的な専門基礎知識を習得する。 医学・心理学的な知識に裏づけられた必須基礎技術を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士テキスト 第3版・配布資料				【授業外における学習】 毎回、国家試験の過去問題を含めた練習問題を配布するため、復習すること。 また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】言語聴覚士の定義・業務とリハビリテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 法制度上の言語聴覚士の定義と業務を説明できる。			9	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 音声障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 音声障害の定義と基本症状を説明できる。また、音声障害を生じる代表的な喉頭病変の内視鏡動画を供覧し、嚙声の聴覚心理学的評価法(GRBAS尺度)を演習し、習得する。		
2	【授業単元】言語聴覚士が行う診療補助行為とリハビリテーション 【授業形態】講義 【到達目標】 人工内耳の調整・摂食嚥下訓練その他の医療行為を列挙し、簡潔に説明できる。さらにリハビリテーション・チームの構成と各職種の役割を説明できる。			10	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 気管切開術後の発声障害 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸器系の構造と機能の基礎知識を習得し、発声発語器官の構造名称を記述できる。また、気管切開術の実際と気管切開児の音声獲得過程を動画で供覧し、呼吸と発声の関連性を理解する。さらに基本的な気管 カニューレの構造名称を記述できる。		
3	【授業単元】ことばの鎖からみた言語聴覚障害の種類 【授業形態】講義 【到達目標】 ことばの鎖(Speech Chain)の図を説明し、言語学的過程と生理学的過程に分けて、障害の種類を列挙できる。			11	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害の定義と基本症状を説明できる。また、成人・小児の運動障害性構音障害と摂食・嚥下障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
4	【授業単元】リハビリテーションの医学的根拠 【授業形態】講義 【到達目標】 「脳と心」を題材にリハビリテーションの医学的根拠を、脳損傷による言語障害からの回復について、神経系の解剖・生理学的用語から平易に説明できる。			12	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 器質性構音障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 成人では口腔癌(舌癌術後)、小児では唇顎口蓋裂に起因する器質性構音障害の定義と基本症状を説明できる。また、成人・小児の器質性構音障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
5	【授業単元】成人の言語障害 失語症① 【授業形態】講義 【到達目標】 失語症を理解するための中枢神経系の構造(特に言語機能に関連する脳部位)をイラストや動画と対比して同定できる。			13	【授業単元】成人・小児の発声発語障害 吃音(流暢性障害) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 小児・成人の吃音(流暢性障害)の定義と基本症状を説明できる。また、吃音のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。		
6	【授業単元】成人の言語障害 失語症② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 失語症の定義と基本症状を説明できる。また、失語症のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。			14	【授業単元】成人・小児の聴覚障害 難聴 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 聴覚系の基本的構造・機能を理解し、難聴の分類を説明できる。また小児・成人の手話でコミュニケーションを図る聾者のドキュメンタリー動画を供覧し、聴覚障害児(者)のコミュニケーション手段を説明できる。		
7	【授業単元】小児の言語障害 言語発達障害① 【授業形態】講義 【到達目標】 乳幼児期の正常言語発達の過程を発達段階別に重要ポイント説明出来る。言語発達の阻害要因と言語発達障害の原因となる障害の種類を列挙できる。			15	【授業単元】定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】講義 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】小児の言語障害 言語発達障害②・中間試験 【授業形態】講義・演習・試験 【到達目標】 言語発達障害の定義と基本症状を説明できる。また、言語発達障害のスクリーニングテストの技術を演習し、習得する。第1回～第8回の内容を筆記試験し、解答・解説し、不明・誤った問題を解けるように修正し、理解する。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ (Diagnosis of Speech and Hearing Disabilities I first half)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日4.5限 日曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて脳損傷より言語障害や高次脳機能障害等を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員がその臨床経験を活かして講義と演習を展開する。本科目前半では「注意障害」「記憶障害」「視空間失認」などについて講義と実習をする。実習では全員が患者役言語聴覚士役を交代で担当し現場で実際の患者様に実施することを想定して望んで欲しい。							
【到達目標】 ①各々の病態を正しく理解する。 ②各々の検査の目的と各項目で評価しうる機能を理解する。 ③正しい手順で検査を実施できるようになる。 ④検査結果を正しく分析し訓練プログラムの立案に役立てることが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 病気がみえる 第2版				【授業外における学習】 事前に該当するマニュアルを読んでおく。			
回		回	授 業 概 要				
1	【授業単元】認知症について① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①認知症の種類、各々の原因と病態、評価、リハビリの概要について理解する。 ②HDS-RとMMSEを実習し評価に結びつける。	9	【授業単元】失行について③ 【授業形態】講義 【到達目標】 SPTAを実習し評価に結びつける。その2				
2	【授業単元】認知症について② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①RCPMとコース立方体検査を実習し評価に結びつける	10	【授業単元】失認について① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①失認の概要を理解する ②視覚失認の概要を理解する				
3	【授業単元】総合的知能の評価について① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①WAIS-Ⅲの各下位検査の目的と概要を理解する。その1 ②WAIS-Ⅲの各下位検査を実習し評価に結びつける。その1	11	【授業単元】失認について② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①VPTAを実習し評価に結びつける。その1				
4	【授業単元】総合的知能の評価について② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①WAIS-Ⅲの各下位検査の目的と概要を理解する。その2 ②WAIS-Ⅲの各下位検査を実習し評価に結びつける。その2	12	【授業単元】失認について③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①VPTAを実習し評価に結びつける。その2				
5	【授業単元】総合的知能の評価について③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①WAIS-Ⅲの各下位検査の目的と概要を理解する。その3 ②WAIS-Ⅲの各下位検査を実習し評価に結びつける。その3	13	【授業単元】失認について④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①VPTAを実習し評価に結びつける。その3				
6	【授業単元】総合的知能の評価について④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①WAIS-Ⅲの各下位検査の目的と概要を理解する。その4 ②WAIS-Ⅲの各下位検査を実習し評価に結びつける。その4	14	【授業単元】失認について⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①VPTAを実習し評価に結びつける。その4				
7	【授業単元】失行について① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①古典的失行の概要を理解する ②非古典的失行の概要を理解する ③統制の障害の概要を理解する ④その他の行為・動作の障害(非失行性の障害)の概要を理解する	15	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験(40点) 講義 【到達目標】				
8	【授業単元】失行について② 【授業形態】講義 【到達目標】 SPTAを実習し評価に結びつける。その1	【評価について】 筆記試験にて評価する。中間試験(40点)定期試験(60点)。					
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ (Diagnosis of Speech and Hearing DisabilitiesⅠ later half)	必修	年次	1年	担当教員	
		講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日4.5限 日曜日3限
学科・コース	言語聴覚士科 2年制					
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて脳損傷より言語障害や高次脳機能障害等を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員がその臨床経験を活かして講義と演習を展開する。本科目前半では「注意障害」「記憶障害」「視空間失認」などについて講義と実習をする。実習では全員が患者役言語聴覚士役を交代で担当し現場で実際の患者様に実施することを想定して望んで欲しい。						
【到達目標】 ①各々の病態を正しく理解する。 ②各々の検査の目的と各項目で評価しうる機能を理解する。 ③正しい手順で検査を実施できるようになる。 ④検査結果を正しく分析し訓練プログラムの立案に役立てることが出来るようになる。						
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 病気がみえる 第2版			【授業外における学習】 事前に該当するマニュアルを読んでおく。			
回	授 業 概 要					
16	【授業単元】注意障害について1 【授業形態】講義 【到達目標】 ①注意障害の概要を理解する		24 【授業単元】視空間失認について1 【授業形態】講義 【到達目標】 ①視空間失認の概要を理解する			
17	【授業単元】注意障害について2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①CATを実施し評価に結びつける		25 【授業単元】視空間失認について2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①BITを実施し評価に結びつける。			
18	【授業単元】記憶障害について1 【授業形態】講義 【到達目標】 ①記憶障害の概要を理解する		26 【授業単元】視空間失認について3 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①BITを実施し評価に結びつける。			
19	【授業単元】記憶障害について2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①言語性の記憶障害の検査「三宅式」を実施し評価に結びつける。 ②非言語性の記憶障害の検査「Reyの複雑図形」を実施し評価に結びつける。		27 【授業単元】前頭葉の機能について 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①前頭葉機能の概要を理解する。 ②FABを実施し評価に結びつける。			
20	【授業単元】記憶障害について3 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 総合的な記憶障害の検査「WMS-R」を実施し評価に結びつける。①		28 【授業単元】高次脳機能障害のスクリーニング検査について理解する1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①浜松式(抜粋)を実施し評価に結びつける。その1			
21	【授業単元】記憶障害について4 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 総合的な記憶障害の検査「WMS-R」を実施し評価に結びつける。②		29 【授業単元】高次脳機能障害のスクリーニング検査について理解する2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ①浜松式(抜粋)を実施し評価に結びつける。その2			
22	【授業単元】記憶障害について5 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 総合的な記憶障害の検査「RBMT」を実施し評価に結びつける。①		30 【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】			
23	【授業単元】記憶障害について6 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 総合的な記憶障害の検査「RBMT」を実施し評価に結びつける。②		【評価について】 中間試験と定期試験の合計点数により科目評価とする。			
【特記事項】						

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅱ (Diagnosis of Speech and Hearing Disabilities Ⅱ)	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日4.5限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて脳損傷より言語障害や高次脳機能障害等を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員が担当する。本科目では失語症と高次脳機能障害等のスクリーニング検査を作成することおよびOSCE(客観的臨床能力検査)の実施を通して言語聴覚士としての実践力を身につけて欲しい。						
【到達目標】 1.失語症および種々の高次脳機能障害の症状を俯瞰して把握する力を身につける。 2.失語症および種々の高次脳機能障害をスクリーニングするために必要な検査項目について理解する。 3.スクリーニング検査に適した問題設定、図版、について理解する。 4.記録しやすく症状を把握しやすい記録用紙について理解する						
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 各種配布資料				【授業外における学習】 グループのメンバーと協力して期日内に仕上げるよう工夫して下さい。		
回	授 業 概 要		回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 スクリーニング検査とは何か 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査の目的と概要を理解する ②スクリーニング検査作成上の注意事項を理解する ③スクリーニング検査をグループ毎に作成する		9	【授業単元】 OSCEとは何か 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①言語聴覚士として修得すべき観察力について理解する ②言語聴覚士として修得すべきコミュニケーション態度について理解する		
2	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		10	【授業単元】 OSCEとは何か 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①言語聴覚士として修得すべき観察力について理解する ②言語聴覚士として修得すべきコミュニケーション態度について理解する		
3	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		11	【授業単元】 提出されたスクリーニング検査に対するフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①スクリーニング検査の目的と概要を理解する ②スクリーニング検査作成上の注意事項を理解する		
4	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		12	【授業単元】 提出されたスクリーニング検査に対するフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 ①スクリーニング検査の目的と概要を理解する ②スクリーニング検査作成上の注意事項を理解する		
5	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		13	【授業単元】 OSCEに向けての心構え 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①代表学生による公開レッスン ②代表学生による公開レッスンを通してOSCEに向けての準備をする		
6	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		14	【授業単元】 スクリーニング検査の仕上げ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 フィードバックされた内容を参考に各自スクリーニング検査を仕上げる		
7	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する		15	【授業単元】 スクリーニング検査の仕上げ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 フィードバックされた内容を参考に各自スクリーニング検査を仕上げる		
8	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ①スクリーニング検査をグループ毎に作成する ②以下の二つをグループ毎に提出する。 i)ファイルに綴じたもの ii)USBにてデータを提出		【評価について】 ①各自が作成したスクリーニング検査(40点) ②OSCEの結果(60点)			
【特記事項】 学校で作成したスクリーニング検査を評価実習および臨床実習にて対象症例の評価に使わせて頂くことが少なくない。現場で通用するクオリティーを目指して作成して欲しい。						

科目名 (英)	失語症Ⅰ (Aphasia)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 土曜日 2・3限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として超急性期から超慢性期の言語障害を負われた方達と病院、保健・福祉センター、友の会等で関わってきた経験をもとに授業を行う。現在の所属である急性期病院の現場にはどのような患者様がいらして、どのような状態で回復期リハビリテーション病院に転院されるのか、回復期後の慢性期(生活期)に自主グループや友の会でどのような活動をされているか、等々、日々STとして直面している、いまそこにある課題を伝えていく。授業では現場を強くイメージし、何のために知識を習得するのかを理解するよう努めてほしい。							
【到達目標】 失語症の評価法の中で、代表的なものを知り、症状の特徴、実施の目的に合わせた選択の必要性を説明できる 機能評価だけでなく、生活全般に目を向けた評価の視点の重要性を説明できる 古典的な分類以外にも重要なタイプが複数あり、その特徴を理解し、正しい診断ができるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
標準言語聴覚障害学「失語症学」(医学書院)、配布資料				多くの新しい用語に出会うため、各用語の定義を次回授業までに復習すること。定義を曖昧にしないよう心掛け、その定義を患者様とご家族に説明できるレベルを目標にしてほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失語症の評価・診断② 【授業形態】 講義 【到達目標】 標準失語症検査(SLTA)の内容を説明できる			9	【授業単元】 言語治療の理論と技法① 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の代表的な訓練法(刺激法、機能再編成法)について説明できる		
2	【授業単元】 失語症の評価・診断③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 SLTA以外の検査(SLTA-ST)の内容、違いについて説明できる			10	【授業単元】 言語治療の理論と技法② 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の代表的な訓練法(遮断除去法、行動変容法)について説明できる		
3	【授業単元】 失語症の評価・診断④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 SLTA以外の検査(重度失語症検査)の内容、違いについて説明できる			11	【授業単元】 言語治療の理論と技法③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の代表的な訓練法(実用的コミュニケーション訓練、拡大・代替コミュニケーション)について説明できる		
4	【授業単元】 失語症の評価・診断⑤ 【授業形態】 講義 【到達目標】 実用的なコミュニケーション能力の評価・診断について説明できる			12	【授業単元】 特殊な失語① 【授業形態】 講義 【到達目標】 古典的な分類以外の失語タイプ(交叉性失語、皮質下性失語)の特徴を具体的に述べることができる		
5	【授業単元】 実用的なコミュニケーションとICF 【授業形態】 講義 【到達目標】 国際生活機能分類(ICF)の特徴と枠組みについて説明できる			13	【授業単元】 特殊な失語② 【授業形態】 講義 【到達目標】 古典的な分類以外の失語タイプ(原発性進行性失語)と純粋型の特徴を具体的に述べることができる		
6	【授業単元】 言語聴覚療法の過程(ICFを踏まえた訓練へ) 【授業形態】 講義 【到達目標】 機能評価だけでなく、ICFを踏まえて訓練に移行するために必要な多職種連携、インフォームドコンセント、リスクマネジメントについて説明できる			14	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまで学んできた言語治療の理論と技法、特殊な失語の総復習		
7	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 失語症の評価・診断を中心にこれまで学んできたことの総復習			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの授業で扱ったすべての内容を対象とした試験を行う		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの授業で扱ったすべての内容を対象とした試験を行う			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業及び小テストで実施した内容をきちんと習得できたかどうかを確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 小テストは必要な回数を実施するが、その問題がそのまま中間・定期試験に出ると約束されている訳ではない。丸暗記ではなく、使える知識にしていくこと。							

科目名 (英)	失語症Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(AphasiaⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期
学科・専攻	言語聴覚士科2年制					曜日・時間	土曜日 2・3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として超急性期から超慢性期の言語障害を負われた方達と病院、保健・福祉センター、友の会等に関わってきた経験をもとに授業を行う。 現在の所属である急性期病棟の現場にはどのような患者様がいらして、どのような状態で回復期リハビリテーション病棟に転院されるのか、回復期後の慢性期(生活期)に自主グループや友の会でどのような活動をされているか、等々、日々STとして直面している、いまそこにある課題を伝えていく。 授業では現場を強くイメージし、何のために知識を習得するのかを理解するように努めてほしい。							
【到達目標】 言語治療の考え方を理解し、各訓練法の特徴を具体的に述べるができる 失語症と合併しやすい障害について、損傷部位に合わせた予測、確認、診断ができるレベルようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学「失語症学」(医学書院)、配布資料				【授業外における学習】 多くの新しい用語に出会うため、各用語の定義を次回授業までに復習すること。定義を曖昧にしないよう心掛け、その定義を患者様とご家族に説明できるレベルを目標にしてほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 純粹型の復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 純粹語啞、純粹語聾、純粹失読、純粹失書、失読失書の特徴を理解する			9	【授業単元】 社会復帰 【授業形態】 講義 【到達目標】 職業復帰、家庭復帰、社会適応について説明できる		
2	【授業単元】 言語治療計画の立て方① 【授業形態】 講義 【到達目標】 治療計画の根拠となる脳画像の復習、評価・診断の復習を行い、基礎知識の重要性を理解する 言語治療の適応、目標設定、方針の内容を説明できる			10	【授業単元】 失語症と合併しやすい障害① 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動障害、構音障害、視野障害について説明できる		
3	【授業単元】 言語治療計画の立て方② 【授業形態】 講義 【到達目標】 急性期の評価・訓練・援助・安全管理について説明できる			11	【授業単元】 失語症と合併しやすい障害② 【授業形態】 講義 【到達目標】 失行、失認について説明できる		
4	【授業単元】 言語治療計画の立て方③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 回復期の評価・訓練・援助の概要を理解できる			12	【授業単元】 失語症と合併しやすい障害③ 【授業形態】 講義 【到達目標】 注意障害、記憶障害について説明できる		
5	【授業単元】 言語治療計画の立て方④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 回復期の評価・訓練・援助の内容(意味、構文など)を説明できる			13	【授業単元】 失語症と合併しやすい障害④ 【授業形態】 講義 【到達目標】 視覚認知障害について説明できる		
6	【授業単元】 言語治療計画の立て方⑤ 【授業形態】 講義 【到達目標】 重度失語症の訓練について説明できる 急性期・回復期の訓練についての復習			14	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの授業で扱ったすべての内容を対象とした試験を行う		
7	【授業単元】 言語治療計画の立て方⑥ 【授業形態】 講義 【到達目標】 生活期の訓練・援助について説明できる			15	【授業単元】 定期試験の振り返り 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験問題の解答解説と総復習を行い、知識を確実にする		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 これまでの授業で扱ったすべての内容を対象とした試験			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業及び小テストで実施した内容をきちんと習得できたかどうかを確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 小テストは必要な回数を実施する。							

科目名 (英)	失語症演習	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Practice of Aphasia)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 2・3時限
学科・専攻	言語聴覚士科2年制						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として超急性期から超慢性期の言語障害を負われた方達と病院、保健・福祉センター、友の会等で関わってきた経験をもとに授業を行う。 現在の所属である急性期病院の現場にはどのような患者様がいらして、どのような状態で回復期リハビリテーション病院に転院されるのか、回復期後の慢性期(生活期)に自主グループや友の会でどのような活動をされているか、等々、日々STとして直面している、いまそこにある課題を伝えていく。 授業では現場を強くイメージし、何のために知識を習得するのかを理解できるよう努めてほしい。							
【到達目標】 言語治療の具体的な方法を理解する 一人一人の症状に合わせた適切な訓練を見つけ出す姿勢を習得するレベルを目指す 急性期、回復期、慢性期(生活期)のそれぞれで求められる訓練内容を把握する							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学「失語症学」(医学書院)、配布資料				【授業外における学習】 多くの新しい用語に出会うため、各用語の定義を次回授業までに復習すること。定義を曖昧にしないよう心掛け、その定義を患者様とご家族に説明できるレベルを目標にしてほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 鑑別診断① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 具体的な症状についての情報収集、スクリーニング検査の手法を理解し、実践できる			9	【授業単元】 総合的な検査③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 掘り下げ検査は複数あり、その違いを比較検討できる		
2	【授業単元】 鑑別診断② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 検査結果をもとに診断の絞り込みが出来る			10	【授業単元】 総合的な検査④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 掘り下げ検査は複数あり、その違いを比較検討できる		
3	【授業単元】 鑑別診断③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症を含む高次脳機能障害の鑑別診断の根拠を説明できる			11	【授業単元】 訓練法① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 聴理解に関する適切な訓練を選択し実施できる		
4	【授業単元】 総合的な検査① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 診断に合わせて選択した総合的な検査の手法を理解し実践できる			12	【授業単元】 訓練法② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 発話に関する適切な訓練を選択し実践できる		
5	【授業単元】 総合的な検査② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 総合的な検査にも種類があり、各検査の手法を理解し実践できる			13	【授業単元】 訓練法③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 読解に関する適切な訓練を選択し実践できる		
6	【授業単元】 総合的な検査③ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 総合的な検査にも種類があり、各検査の手法を理解し実践できる			14	【授業単元】 訓練法④ 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 書字・計算に関する適切な訓練を選択し実践できる		
7	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 鑑別診断、総合的な検査の知識が確実にできるよう試験で確認を行う。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験の振り返り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業及び小テストで実施した内容をきちんと習得できたかどうかを確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 小テストは必要な回数を実施するが、その問題がそのまま中間・定期試験に出ると約束されている訳ではない。丸暗記ではなく、使える知識にしていくこと							

科目名 (英)	高次脳機能障害学 I (Higher Brain Dysfunction I)	必修 選択	必修	年次	1 年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 5限 日曜日3.4.5限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて失語症・高次脳機能障害を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員がその臨床経験を活かして講義と演習を展開する。臨床実習にむけて失語症の見方について理解して欲しい。							
【到達目標】 ①失語症の症状分析について理解する ②失語症の掘り下げ検査について理解する ③失語症の教材について理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 病気がみえる 第2版 なるほど!失語症の評価と治療				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】失語症の症状分析について理解する(基礎的な専門用語の理解) 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①基礎的な専門用語を理解する ②SLTAの復習 ③掘り下げ検査の選び方について理解する			9	【授業単元】 抽象語理解力検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 抽象語理解力検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
2	【授業単元】 失語症構文検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症構文検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			10	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その1 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 失語症語彙検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
3	【授業単元】 失語症構文検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症構文検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			11	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その2 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 失語症語彙検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
4	【授業単元】 失語症構文検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症構文検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			12	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その3 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①検査演習		
5	【授業単元】 TOKEN TEST 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 TOKENTESTの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			13	【授業単元】訓練教材について理解する その1 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 目的に応じた教材の選択について理解する		
6	【授業単元】 標準失語症検査補助テスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 標準失語症検査補助テストの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			14	【授業単元】訓練教材について理解する その2 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 目的に応じた教材の選択について理解する		
7	【授業単元】 標準失語症検査補助テスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 標準失語症検査補助テストの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験(60点)		
8	【授業単元】 標準失語症検査補助テスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 標準失語症検査補助テストの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			【評価について】 筆記試験にて評価する。課題の提出と定期試験(60点満点)とを合わせて実施(100点)。			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅱ (Higher Brain DysfunctionⅡ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて失語症・高次脳機能障害を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員がその臨床経験を活かして講義と演習を展開する。臨床実習にむけて失語症の見方について理解して欲しい。							
【到達目標】 ①失語症の症状分析について理解する ②認知神経心理学的な考え方を理解する ③認知神経心理学的理論に基づいた検査(失語症語彙検査)について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 病気がみえる 第2版 なるほど!失語症の評価と治療				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】失語症の症状についての復習(基礎的な専門用語の理解) 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①基礎的な専門用語を理解する			9	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験(40点) 【到達目標】		
2	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その1 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①聴覚的理解のメカニズムについて			10	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その1 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①検査演習		
3	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その2 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①呼称のメカニズムについて			11	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その2 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①検査演習		
4	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その3 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①復唱のメカニズムについて			12	【授業単元】失語症語彙検査について理解する その3 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①検査演習		
5	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その4 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①読解のメカニズムについて			13	【授業単元】訓練方法について理解する その1 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①理解面		
6	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その5 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①音読のメカニズムについて			14	【授業単元】訓練方法について理解する その2 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①表出面		
7	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その6 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①書称のメカニズムについて			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 筆記試験(60点)		
8	【授業単元】認知神経心理学的な考え方を理解する その7 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 ①書取りのメカニズムについて			【評価について】 筆記試験にて評価する中間試験(40点)定期試験(60点)。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ (Language developmental disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 4・5限
【授業の学習内容と心構え】 医療・福祉機関で長年にわたり言語聴覚士として小児の言語発達障害児の臨床経験を積み、特に言語発達遅滞、自閉症スペクトラムや学習障害の臨床研究論文や書籍を執筆してきた教員が、必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。具体的には、基礎知識や評価・指導法を臨床経験を踏まえて実例を挙げ、言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語発達障害児の代表的な評価・指導法を説明でき、基本的な検査や指導法を実施できるようになることを目標とする。小児の言語発達臨床の重要性への理解を深め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 乳幼児期～学童期の定型(正常)言語発達の過程を言語化して、説明できる。 言語発達を阻害する発達障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための代表的な検査の実施と解釈を含めた評価方法を習得する。 評価結果を指導法に結びつける臨床的な思考技術と基本的な指導方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語発達障害学 第3版(医学書院)・配布資料				【授業外における学習】 毎回、練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。検査法については、代表的な検査の実施方法を練習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】乳幼児期の定型(正常)言語発達と1歳6ヶ月児・3歳児健診 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳幼児期の言語発達過程を説明できる。1歳6ヶ月児・3歳児健診のスクリーニング検査を実施できる。			9	【授業単元】知的能力の評価①: 田中ビネー式知能検査Ⅴその1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に乳幼児期の知的能力を精密に評価できる田中ビネー式知能検査Ⅴの構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施することの多い、2歳～7歳級の検査場面を動画で見て実施方法を理解する。		
2	【授業単元】乳児期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳児期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。乳児期の原始反射検査を実施できる。			10	【授業単元】知的能力の評価①: 田中ビネー式知能検査Ⅴその2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語聴覚士が実施することの多い、2歳～7歳級の検査場面を動画で見て、結果の処理と知能指数を算出できる。		
3	【授業単元】幼児期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 幼児期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。幼児期の感覚運動発達の検査法(随意運動発達検査)を実施できる。			11	【授業単元】知的能力の評価②: WISC－Ⅴ知能検査その1 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に就学前～学童期の知的能力を精密に評価できるWISC－Ⅴ知能検査の構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施している検査場面を動画で見て実施方法を理解する。		
4	【授業単元】就学前期～学童期の音声言語・認知・感覚運動発達 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 就学前期～学童期の音声言語・認知・運動発達過程を説明できる。微細神経徴候を含めて、就学前期の軽微な発達の問題を捉える5歳児健診の構造的診察法を実施できる。			12	【授業単元】知的能力の評価②: WISC－Ⅴ知能検査その2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語理解指標・知覚推理指標・ワーキングメモリー指標・処理速度指標の基本下位検査を実施できる。		
5	【授業単元】言語発達の阻害要因①: 発達障害・知的障害・脳性麻痺 【授業形態】講義 【到達目標】 DSM-5とICD-11に基づく言語発達の阻害要因となる神経発達障害・知的能力障害・脳性麻痺の定義と主症状を診断基準に基づいて言語化して説明できる。			13	【授業単元】知的能力の評価②: WISC－Ⅴ知能検査その3 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語理解指標・知覚推理指標・ワーキングメモリー指標・処理速度指標の補助下位検査を実施できる。		
6	【授業単元】言語発達の阻害要因②: 小児の音韻発達と構音障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語発達に影響する構音障害の主症状について音韻発達段階を考慮して言語化して説明できる。主に鼻咽腔閉鎖不全に関連する異常構音と他の異常構音の種類を症例の動画と音声サンプルを聴いて、聴覚判定できる。			14	【授業単元】知的能力の評価②: WISC－Ⅴ知能検査その4 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 WISC－Ⅴ結果解釈手続きに則って、結果を処理し、各種合成得点やディスクレパンシー分析、SとWの判定などができる。		
7	【授業単元】言語発達の阻害要因③: 小児の摂食嚥下障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 言語発達に影響する摂食嚥下障害の主症状について、発達段階を考慮して言語化して説明できる。症例の動画を視て、摂食嚥下機能の発達段階を判定できる。			15	【授業単元】中間試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】全般的発達の評価①: 新版K式発達検査2020 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に乳幼児期の姿勢運動領域・認知適応領域・言語社会領域を精密に評価できる新版K式発達検査の目的・適用年齢・構成・実施方法を説明できる。言語聴覚士が実施することの多い、1歳～5歳レベル(第3葉～第5葉)の検査場面を動画で視て、発達指数を算出できる。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、中間試験は40点で評価する。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ (Language developmental disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 4・5限
【授業の学習内容と心構え】 医療・福祉機関で長年にわたる言語聴覚士として小児の言語発達障害児の臨床経験を積み、特に言語発達遅滞、自閉症スペクトラムや学習障害の臨床研究論文や書籍を執筆してきた教員が、必須知識と技術の基礎を習得する授業を行なう。具体的には、基礎知識や評価・指導法を臨床経験を踏まえて実例を挙げ、言語聴覚療法の実場面の動画を豊富に活用して、言語発達障害児の代表的な評価・指導法を説明でき、基本的な検査や指導法を実施できるようになることを目標とする。小児の言語発達臨床の重要性への理解を深め、能動的に学習に取り組むように努めて受講してほしい。毎回実場面の動画を患者・ご家族に同意を得たうえで供覧するので、真摯な受講態度で講義に臨むこと。							
【到達目標】 乳幼児期～学童期の定型(正常)言語発達の過程を言語化して、説明できる。 言語発達を阻害する発達障害の種類と代表的症状について動画をみて説明できる。 各障害を理解するための代表的な検査の実施と解釈を含めた評価方法を習得する。 評価結果を指導法に結びつける臨床的な思考技術と基本的な指導方法を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語発達障害学 第3版(医学書院)・配布資料				【授業外における学習】 練習問題を配布するため、復習すること。また、配布資料に理解すべきポイントを提示するため、ノートにまとめること。検査法については、代表的な検査の実施方法を練習すること。			
回	授 業 概 要						
16	【授業単元】評価:国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S法) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 乳幼児期の言語発達段階を国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S)法の実施方法を説明できる。特に記号形式－指示内容関係の発達段階の判定ができる。			24	【授業単元】自閉スペクトラム症(ASD)の言語指導③ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導への応用行動分析(ABA)の考え方を説明できる。さらに受容性コミュニケーションと表現コミュニケーションのプログラムと訓練課題を立案できる。T		
17	【授業単元】評価:国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S法) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 国リハ式言語発達遅滞検査法(S-S)法の実施方法を動画で見て、実際の症例の言語発達段階の判定解釈及び症状分類ができる。			25	【授業単元】知的能力障害の言語評価と指導 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主にダウン症児の言語コミュニケーション評価と指導の流れを説明できる。また、ダウン症児の言語コミュニケーションプログラムの実際を動画をみて、その目的を説明できる。		
18	【授業単元】指導:S-S法に基づく包括的訓練プログラム① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 国リハ式言語発達遅滞検査法結果から受信と発信およびコミュニケーション行動の訓練プログラムを立案できる。具体的訓練課題の考案方法を理解できる。			26	【授業単元】限局性学習障害の言語評価と指導① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に発達性読み書き障害/算数障害の主症状を説明できる。さらに特異的発達障害の診断・治療ガイドライン、K-ABCⅡ、標準読み書きスクリーニング検査(STRAW-R)の概要と基本的検査方法を習得する。		
19	【授業単元】指導:S-S法に基づく包括的訓練プログラム② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 具体的訓練課題の考案方法を理解し、教材を作成できる。			27	【授業単元】限局性学習障害の言語評価と指導② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 主に発達性読み書き障害/算数障害の主症状を説明できる。さらに特異的発達障害の診断・治療ガイドライン、K-ABCⅡ、標準読み書きスクリーニング検査(STRAW-R)の概要と基本的検査方法を習得する。		
20	【授業単元】自閉スペクトラム症(ASD)の診断と評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 DSM-5に基づく言語発達の代表的な阻害要因となる自閉症スペクトラムの定義と主症状を診断基準に基づいて言語化して説明できる。さらに、言語・コミュニケーション障害の特徴を説明できる。			28	【授業単元】注意欠如・多動性障害の言語コミュニケーションの特徴と支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 注意欠如・多動性障害の主症状と言語コミュニケーション障害の特徴を説明できる。さらにDN-CAS認知機能評価について演習し、「基本的検査方法を習得する。		
21	【授業単元】自閉スペクトラム症(ASD)の言語評価 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語・コミュニケーション評価として、心の理論評価(一次・二次誤信念課題とストレンジ・ストーリー)および比喩・皮肉文テストを実施し、結果を解釈できる。			29	【授業単元】脳性麻痺・重複障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 脳性麻痺の定義と主症状説明し、タイプ分類ができる。また、脳性麻痺を中心とした重症心身障害児のコミュニケーション支援と摂食嚥下機能の指導方法を説明できる。		
22	【授業単元】自閉スペクトラム症(ASD)の言語指導① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導として、語用論的アプローチの考え方を説明できる。さらに相互交渉型アプローチ・伝達場面設定型指導・会話分析・社会語用論的グループ指導を説明し、模擬実演できる。			30	【授業単元】試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。抽出された課題の何がわからなかったのかを特定する。		
23	【授業単元】自閉スペクトラム症(ASD)の言語指導② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 自閉症スペクトラムの言語コミュニケーション指導へのTEACHプログラムの応用方法を説明できる。特に物理的構造化・視覚スケジュール・ワークシステム・視覚的構造化の方法を説明し、プログラムを立案できる。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で、確認した知識・技術の理解・定着度を確認する。筆記試験は、定期試験は60点で評価する。 最終的に中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモをとること。 健康・体調管理に留意して、可能な限り欠席しないこと。							

科目名 (英)	音声障害Ⅰ (Voice disorderⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 集中講義
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として臨床経験を有する教員が講義を行う。この授業では音声障害の評価・種類・治療についての知識を教授する。基礎となる、呼吸発声発語系の構造・機能・病態について復習して参加すること。							
【到達目標】 ①音声生成のメカニズムを説明できる。②音声障害を検出する検査とその特徴を挙げることができる。③音声障害を起こす疾患を説明することができる。④音声障害のリハビリテーションを説明することができる。⑤気管切開および無喉頭音声を説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】解剖・生理 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①オーバービュー：音声障害とは／デモンストレーション ②声が出る原理 ③呼吸にかかわる部位・解剖 ④喉頭(声帯)の解剖	9	【授業単元】疾患 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①声帯麻痺 ②声帯麻痺の手術				
2	【授業単元】解剖・生理 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①声帯の働き ②声の高さ ③声の強さ ④声の持続	10	【授業単元】疾患 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①心因性失声症 ②変声障害 ③痙攣性発声障害 ④その他				
3	【授業単元】検査 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①喉頭鏡、喉頭ファイバー ②ストロボスコーピー ③その他	11	【授業単元】訓練 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①STの行う音声治療：概論 ②間接訓練：声の衛生指導 ③直接訓練：病状対処的訓練(1)				
4	【授業単元】検査 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①グラバス評価 ②発声持続時間 ③声域など	12	【授業単元】訓練 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①直接訓練：病状対処的訓練(2) ②直接訓練：包括訓練				
5	【授業単元】疾患 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①音声障害をもたらす疾患 ②声帯の器質的疾患：声帯ポリープ ③声帯の器質的疾患：ポリープ様声帯	13	【授業単元】気管切開 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①気管切開とは ②カニューレの実際 ③コミュニケーション確保：人工喉頭				
6	【授業単元】疾患 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①声帯の器質的疾患：声帯結節 ②声帯の器質的疾患：声帯溝症 ③声帯の器質的疾患：喉頭癌	14	【授業単元】無喉頭音声 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①喉頭全摘出とは ②無喉頭音声				
7	【授業単元】疾患 【授業形態】講義 【到達目標】以下の項目について説明できる。 ①声帯の器質的疾患：喉頭炎 ②声帯の器質的疾患：喉頭白板症、喉頭乳頭腫	15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 定期試験 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。				
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 中間試験 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。	【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。					
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅰ (Speech disordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 土曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 長年小児の臨床に携わってきた教員が、言語聴覚士のスペシャリストとして社会に送り出すために、構音障害に必要な知識と技術を習得する授業を行う。また、講義を通して、学習のモチベーションを維持できるように、具体的なST業務の魅力ややりがいについて伝えていきたい。その日授業を受けたら、復習をしっかりした上で、次週の授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 機能性・器質性構音障害の基礎的知識と構音訓練法の習得							
【使用教科書・教材・参考書】 発声発語障害学第3版 医学書院 2015 構音障害の臨床 金原出版 2008				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 構音の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音の発達の流れを理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 構音器官 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音器官について理解し、子音と母音の実際の構音動作を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 国際音声字母 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 国際音声字母(IPA)に親しむ				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 構音検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 検査手順を理解し、実施できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 構音の誤り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 誤りの種類と鑑別法を理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 器質性構音障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 口蓋裂の概念と治療法を理解する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 器質性構音障害(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 器質性構音障害の評価について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。				【評価について】 定期試験(100点) 実施方法:筆記試験		
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(dysarthria Ⅰ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 日曜日 1・2時限
学科・コース	言語聴覚士科2年制						
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニック、言語デイ、訪問で継続的に運動障害性構音障害の患者の評価訓練や生活支援を行ってきた教員が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。また運動障害性構音障害につながる解剖学、生理学、病理学、臨床神経学、音声学、発声発語器官の機能構造病態、神経系の機能構造病態の復習を行いつつ、障害像やメカニズムを解説していきます。臨床科目として基礎科目での理解度が大きく必要になる科目なので、今までの講義の見直しを行いつつ授業に臨んで下さい。							
【到達目標】 運動障害性構音障害の定義を口頭で説明できる。 運動障害性構音障害の症状とタイプを表を見て理解できる。 運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ディサースリア 臨床標準テキスト 第2版（医歯薬出版）プリント配布				上記科目の過去の講義資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】運動障害性構音障害 定義・鑑別 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の5つの要素を説明できる。言語障害としての運動障害性構音障害の位置づけを理解できる	9	【授業単元】標準ディサースリア検査1 【授業形態】講義 【到達目標】 AMSDの用具や構成について。発話明瞭度、発話自然度、発話特徴、発話速度について理解できる				
2	【授業単元】症状Ⅰ 運動障害 呼吸・発声障害 VPI 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害、呼吸・発声障害、鼻咽腔閉鎖機能障害で起こる症状を理解できる	10	【授業単元】標準ディサースリア検査2 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 AMSD 発声発語器官「呼吸、発声」について理解できる				
3	【授業単元】症状Ⅱ 構音障害 プロソディ障害 【授業形態】講義 【到達目標】 プロソディ障害で起こる症状を理解できる。日本語で使用する正しい構音について理解し説明できる。	11	【授業単元】標準ディサースリア検査3 【授業形態】講義 【到達目標】 AMSD 発声発語器官「鼻咽腔閉鎖機能、口腔構音運動・単発運動」について理解できる				
4	【授業単元】タイプ分類Ⅰ 痙性 弛緩性 UUMN 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の痙性 弛緩性 UUMNタイプの発話特徴と原因疾患の理解ができる	12	【授業単元】標準ディサースリア検査4 【授業形態】講義 【到達目標】 AMSD 発声発語器官「口腔構音器官・交互反復運動・筋力」について。結果のまとめ方について理解できる				
5	【授業単元】タイプ分類Ⅱ 失調性 混合性 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の失調性、混合性タイプの発話特徴と原因疾患の理解ができる	13	【授業単元】タイプ分類 演習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の症例情報と音声サンプルを元にタイプの診断ができる				
6	【授業単元】検査総論 機械を用いた検査、発話特徴抽出検査 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の検査の種類が弁別できる。新版・構音検査の方法と手順が理解できる。機械を用いた検査、発話特徴抽出検査の理解ができる	14	【授業単元】症例検討 ICF 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の情報をICFにまとめることができる				
7	【授業単元】構音障害のスクリーニング 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 構音障害のスクリーニングについて実際の手順を理解して実施できる	15	【授業単元】定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				
8	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する	【評価について】 評価は①記述(持ち込み可)②5択③論述の形式で試験を行う。論述では内容だけでなく文章構成も採点基準に含めます。中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。					
【特記事項】 特記なし							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅰ (dysphagiaⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4・5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 急性期病院で働く中で、日々の業務で関わらない日はないほどに、嚥下障害と言語聴覚療法は密接に関係しています 嚥下のメカニズムや、評価・訓練方法を学ぶと共に、教員の臨床経験を活かしつつ症例紹介なども交え、現場でのST業務を少しでもイメージして頂きたいと 思います							
【到達目標】 嚥下のメカニズム・評価訓練方法といった、基本的な部分を他人に説明できるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 摂食・嚥下ビジュアルリハビリテーション 嚥下ポケットマニュアル				【授業外における学習】 予習・復習 生徒間での実技練習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 総論 STとしての嚥下への関わり 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・ST業務のイメージを掴む ・総論理解			9	【授業単元】 嚥下障害と神経障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・脳血管疾患に伴う嚥下障害のメカニズムを理解する ・神経難病と嚥下障害について理解する		
2	【授業単元】 解剖生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・基本的な摂食嚥下の解剖生理の習得			10	【授業単元】 嚥下評価方法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・嚥下評価方法を知る ・実技		
3	【授業単元】 解剖生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・基本的な摂食嚥下の解剖生理の習得 ・頭頸部の矢状断面図を書けるようになる			11	【授業単元】 嚥下評価方法 発声発語器官との結びつき 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ・嚥下評価と発声発語器官の評価をリンクさせる		
4	【授業単元】 解剖生理 嚥下のモデル 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・基本的な摂食嚥下の解剖生理の習得 ・頭頸部の矢状断面図を書けるようになる ・5期モデル プロセスモデルの理解			12	【授業単元】 嚥下内視鏡 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・嚥下内視鏡について理解する		
5	【授業単元】 解剖復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ここまでの内容を説明できる			13	【授業単元】 嚥下造影検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・嚥下造影検査について理解する		
6	【授業単元】 嚥下の年齢的变化 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児から高齢者までの嚥下機能の変化を理解する			14	【授業単元】 前半復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前半の内容理解		
7	【授業単元】 嚥下障害と病態及び症状 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・嚥下障害がなぜ起こるのか？どのような症状が起こるのか？を理解する			15	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 試験・解説 【到達目標】 前半の内容を概ね理解している		
8	【授業単元】 嚥下障害と誤嚥性肺炎 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・誤嚥性肺炎とはどのような病態が理解する			【評価方法について】 中間試験(40点) 定期試験(60点) 何れも筆記試験 評価は当学規定に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅰ (dysphagiaⅠ)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 4・5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 急性期病院で働く中で、日々の業務で関わらない日はないほどに、嚥下障害と言語聴覚療法は密接に関係しています 嚥下のメカニズムや、評価・訓練方法を学ぶと共に、教員の臨床経験を活かしつつ症例紹介なども交え、現場でのST業務を少しでもイメージして頂きたいと 思います							
【到達目標】 嚥下のメカニズム・評価訓練方法といった、基本的な部分を他人に説明できるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 摂食・嚥下ビジュアルリハビリテーション 嚥下ポケットマニュアル				【授業外における学習】 予習・復習 生徒間での実技練習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 前半復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前半部分の理解確認			24	【授業単元】 口腔内衛生 口腔内病変 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害と口腔内衛生保持の重要性について理解する 口腔内病変について理解する		
17	【授業単元】 嚥下訓練 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接的嚥下訓練と直接的嚥下訓練について理解する			25	【授業単元】 義歯について 【授業形態】 講義 【到達目標】 義歯の適用や意味、取り扱いについて理解する		
18	【授業単元】 嚥下訓練 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接的嚥下訓練と直接的嚥下訓練について理解する			26	【授業単元】 嚥下障害に対する手術 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害に対する手術に関して理解する		
19	【授業単元】 食事介助について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 食事介助方法について理解する			27	【授業単元】 気管切開と嚥下障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 気管切開の対象及び嚥下障害発生要因を解剖的に理解する		
20	【授業単元】 食事介助について 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 食事介助方法について理解する			28	【授業単元】 吸引手技について 【授業形態】 講義 【到達目標】 解剖学的に吸引を理解する		
21	【授業単元】 嚥下食・嚥下ピラミッド 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下食、嚥下ピラミッドについて理解する			29	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 講義の内容理解		
22	【授業単元】 嚥下食・嚥下ピラミッド 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下食、嚥下ピラミッドについて理解する			30	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 試験・解説 【到達目標】 授業内容を概ね理解している		
23	【授業単元】 代替栄養 【授業形態】 講義 【到達目標】 経口摂取以外の栄養確保方法について理解する			【評価方法について】 中間試験(40点) 定期試験(60点) 何れも筆記試験 評価は当学規定に準ずる			
【特記事項】							